



TITLE:

# 京大東アジアセンターニューズレ ター 第584号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン  
ターニューズレター 第584号. 京大東アジアセンターニューズレター  
2015, 584

ISSUE DATE:

2015-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/199789>

RIGHT:

2015 年 8 月 31 日発行 第 584 号

## CONTENTS

上海街角インタビュー ㊟ .....	2
「2015 北東アジア企業発展フォーラム “投資と環境”」参加報告 .....	5
【中国経済最新統計】 .....	9



## 上海街角インタビュー ⑨④

---

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

### 何歳まで働きたいですか？

---

中国の定年は男性 60 歳、女性 50 歳（公務員は 55 歳）。定年に達すると年金が支給される。また中国には退職金という制度はない。中国も年金財政が厳しく、政府は定年を男女とも 65 歳に繰り下げ、それに伴って年金受給年齢も遅らせる案を発表している。これに対して、賛否両論がマスコミを賑わしているが、どうやら反対意見が多いようだ。人々は早く年金をもらってリタイアしたいと思っているのだろうか？

#### 1. 50 歳代前半の男性

私は、体が続く限り長期に働きたいと考えております。子供も小さく、大学まで出たとして、独立するのは、私が 65 歳の時となってしまいます。その時点で、どれ程老後資金があるかにもよりますが、定年 65 歳は賛成で、希望としては定年延長をしてもらって 70 歳までは働きたいです。

#### 2. 40 歳代前半の男性

あまり働くのは好きではないので、定年延長は反対です。定年になればすぐにやめたいですね。しかし、定年になったあと、ぶらぶらしているのも退屈だから趣味で働きたいです。アパートもあるし、まあ、生活する程度の財産はあるので、家計を稼ぐ目的でなければ、自分が好きなことができますから収入と関係なしでやりたいことをやります。

#### 3. 30 歳代中頃の女性

政府の定年延長、年金支給年齢繰り下げ案には大反対です。大多数の人が反対していると思います。私の場合、社会保険を今より 15 年も長く払い、年金を貰うのは 15 年も遅れます。こんな理不尽なことはありません。絶対反対です。

私は 65 歳まで働きたくないです。女性の定年が 65 歳というのは遅すぎます。勿論、大学教授や企業幹部のような特殊な人は長くは働きたいかもしれませんが、私は生活に困らないならば出来るだけ早くリタイアしたいです。フルタイムの仕事をリタイアしたあとは、子どもが独立したら、パートタイムで好きな仕事をします。

#### 4. 40 歳代中頃の女性

私は 50 歳でリタイアしたいです。50 歳になったときまだエネルギーが残っていたら収入に関係なしに自分の好きなことをしたいです。

政府の役人は定年が遅ければ遅いほど特権を長く維持できるので、定年延長には大賛成なのです。普通の人には今の定年年齢でいいと思っています。早く年金を貰いたいです。

私の知人の総経理は定年になったとき一度退職し、年金を貰ってから嘱託で再雇用してもらい同じ給料を貰っています。これは会社にとっても社会保険を払わなくてもよくなるので得策です。能力のある人や特殊技能を持つ人で長く働く気のある人は一種の恩恵を得ることが出来ます。

#### 5. 50 歳代中頃の女性

私はもう定年年齢に達していますが（年金も貰っています）、営業経理をやっており顧客も多いので会社は離したがりません。1 年毎の雇用延長で働き続けています。営業の仕事は面白く、50 歳定年は早すぎます。でも、65 歳までは体力がもつかどうか。

#### 6. 30 歳代中頃の女性

男性の定年 65 歳は賛成ですが、女性も 65 歳というのは反対です。早くやめても 65 歳まで年金が貰えないのは困ります。もし、65 歳にするのなら、55 歳くらいから早期退職した人には一部年金支給するような制度にすべきです。

#### 7. 20 歳代中頃の女性

あまり先過ぎて定年のことは考えられないけれど、65 歳は反対です。50 歳で定年になっても十分生活できる年金を支給できるような制度にすべきです。

#### 8. 50 歳代前半の男性

政府の年金財政が苦しいのは分かるけれど、公務員の年金と企業年金制度を

一本化するなど対策はいろいろあると思います。私は 60 歳で、妻は 50 歳で退職して、この頃には子どもも独立しているので、二人であちこち旅行をする計画です。

話を聞いた一人を除いて、定年延長反対の声が圧倒的に多かった。平均的な上海市民は共働きで、結婚時に持家し、貯金好きな国民性なので適度にお金を貯めており（あるいは定年までに貯めるので）、リタイア後は二人分の年金でのんびり生活するという生活設計をしているようだ。今回話を聞いた人は、最初の男性を除いて子供の学資の負担には触れなかった。祖父母のポケットも計算に入っているのかもしれない。印象として、上海の中産階級は結構豊かだ。

以上





## 「2015 北東アジア企業発展フォーラム “投資と環境” 参加報告

31.AUG.15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

3 か月ほど前に、わが社の琿春工場（中国吉林省琿春市）の総経理から、「今度、延辺州で経済フォーラムが開かれることになり、政府関係者から小島オーナーにパネラーの依頼が来ています。いかがでしょうか」という電話がかかってきた。私は、この数年間、中国問題への発言を控えてきていたので、即答はせず、「具体的な開催要項を送ってください。他の参加者などの顔ぶれなどを見て、出欠を考えます」と答えた。

後日、次のようなことが書かれた開催要項が送られてきた。

日時：9月27日午後2時～4時 場所：延吉市 延辺白山大厦

主催：延辺朝鮮族自治州企業連合会・企業家協会

協力：韓国経営者協会・韓国専門経営者学会・環日本海経済研究所（ERINA）・ロシア沿海州边疆区工商会

パネラー：中国企業家2名・韓国企業家2名・日本企業家1名・ERINA 研究部主任・ロシア企業家1名

この開催要項を読みながら、私は、「今回、このフォーラムに私が呼ばれたのは、先日の“読後雑感”の効果だろうか。あるいは経済が急減速してきたので、それへの刺激効果を求めていることだろ



うか。はたまた日中間の雪解けムードの反映だろうか」などと考えを巡らしてみた。そしてまた、主催者側に ERINA が名を連ねていることを見て、「このフォーラムならば参加しても問題がないだろう」と考え、パネラーを引き受けることにし、その旨を連絡した。数日後、「事前に発言原稿提出すること」との連絡があったので、琿春工場の総経理に下書きをしてもらい、それを少し脚色し

提出した。

9/27、私は約1年半ぶりに中国の地を踏み、フォーラムに臨んだ。この会議は2回目であり、延吉企業連合会が今後、定例行事化していきたい意向のものようだった。当日は会場に約100人の企業家とメディア各社が参集していた。私は中国側主催者や企業経営者などの醸し出す雰囲気、注意深く見てみたが、彼らから経済急減速・上海株急落などの焦燥感は感じられなかった。会議はまず、主催者側の挨拶兼発言で始まり、続いてパネラーの発言が順番になされ、そして型どおり「覚書」を採択して終わった。この間、約2時間半。会議での発言者は、それぞれに母国語で話したので、会場には日中韓口の4か国語が飛び交い、通訳が10人以上携わって、同時通訳しそれを捌いた。これができるのがこの地域の特徴ではあるが、言語の制約と、発言者がそれぞれにまったく関係のないことを一方的に話すだけだったので、フォーラムというのは建前だけで、テーマを深めるということはまったくできず、中途半端な会議で終わった。

ただし私は、この会議から次のことを学ぶことができた。

①中国企業から、「当面の経済低迷の認識と、それを打開するための海外進出の展望」が語られたこと。なかでも海外進出が積極的に語られ、そのための問題点も提起されたことには、いささか驚いた。以下に参考になった発言を記す。

・当面、国の全体的経済の発展速度が落ちており、投資増加傾向が鈍くなり、経済発展圧力が大きくなっています。その影響で企業は資金不足やコスト増加などの困難と安値落札、施工金未納工事などといったさまざまな問題が重なり、圧力がさらに重くなりとても苦しい状況に追い込まれています。これはインフラ建設に大きなダメージと挑戦を与え、政府の税収や就職への圧力をさらに上昇させました。各政府は企業の健康的な成長に目を向け、企業が持続的に発展できるよう支持すべきだと思います。また、政府が法律などをしっかり定めて企業が平等で活力溢れる市場と発展空間でのびのびと成長できるよう頑張ってもらいたい。

・「国の一帯一路」戦略の実施に伴い、北東アジア地域の協力いかつてない発展のチャンスが与えられたのです。延辺の企業はこのチャンスをしっかりとつかみ率先して“外に出る”準備をし、自分特有の地理的、人的優位性を十分に発揮した上で、北東アジア地域経済貿易協力事業に参加し、今後のより広い範囲での協力や競争に必要な経験を積んでいかなければならないと思います。

・企業が第3国で施行・生産またはその他の経営活動を行う際には、その国の投資環境が誘致した資本や技術、サービスをどれだけ活用できるかというのが

企業の生存に大きく関わってきます。延辺の企業、特に民営企業の発展レベルは国内のほかの進んだ地域に比べるとまだ大きい差が出ており、総量の少なさや規模の小ささ、産能の弱さ、リスク対応力や競争力の弱さなど普遍的に弱っているのがわかります。

②韓国企業から、「中国経済と韓国経済の関係」が語られたこと。

- ・近年では、中国経済の成長スピードが遅くなり、外国貿易が大幅に増加することも不可能です。これは中国を最大輸出国にする韓国経済に対しては巨大な衝撃です。だから、今の環境はわれわれに対して、チャンスと挑戦が共存しています。われわれは中韓 FTA の有利な面と弊害を分析して、事前に準備し、企業の更なる発展に有利な条件を作り出せます。

③ロシア沿海州边疆区関係者から、「極東ロシア地域への企業誘致」の宣伝が積極的に行われたこと。私が今までビジネスで会ったロシア人たちは、どちらかというと、取っつきにくく、ぶっきらぼうな性格の人が多く、今回のような熱心かつ低姿勢なロシア人を見たことがなかったので、本当に驚いた。プーチン大統領の東方進出政策の圧力の結果だとは思いますが、彼らは企業誘致のために、中国人や韓国人の企業家になんども懇請していた。

- ・ロシアは現在、低為替レートで、「経済開発リード区」と「ウラジオストックフリーポート」などを建設し、沿海地方への投資や商業の魅力を高める政策を提出しました。

- ・わたしたちのタスクは、沿海州边疆区のため、中国の企業家パートナーを探して、共同プロジェクト実現することです。また、ロシアの質の高い食品および中国で人気の高い企業が中国で発展することを支援したいです。

- ・観光業の発展のほかに、われわれは中国に高品質の製品を提供し、ロシアと中国の企業家の間で長期的なパートナーシップを確立することが可能であるロシア企業を探します。

④日中韓口の発言者の声調に、それぞれ大きな特徴があり、面白かったこと。

- ・中国の発言者たちは、政治家ばりの絶叫調で、演説した。

- ・韓国の発言者たちも、始めは落ち着いた口調であったが、だんだん尻上がりに熱が入ってきて、演説調になった。

- ・ロシアの発言者たちは、終始、事務的で静かな棒読み口調だった。

- ・あえて私は、終始、大人しく静かに参加者に語りかけた。ERINA の S 部長も、柔和な感じの口調で発言された。

当日の夜、主催者側の招待による日本人参加者のみの宴会が行われ、そこで主催者から感想を求められた。私は、率直に、「議論の深まりはなかったが、個



人的にはたいへん面白かった。ことにロシア側の参加者の誘致姿勢には、驚いた」と答えたところ、主催者の中国人も、「私たちもロシア側参加者の態度の豹変ぶりには驚いている」と語った。ついでに私は、「第3回目は、できれば午前・午後の2部制にして、今日のような発言は午前中に済ませ、午後はそれぞれの発言に対する他の参加者からの参考意見を話させるようにしたら、もっと議論が深まると思う。もちろん、言語の問題があるので、事前に参考意見まで提出してもらい、擦り合わせておく必要があると思いますが」と付け加えておいた。

以上

## 【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9 月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10 月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11 月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12 月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014 年												
1 月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2 月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3 月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4 月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5 月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6 月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7 月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8 月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9 月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10 月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11 月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12 月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015 年												
1 月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2 月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3 月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4 月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4
5 月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6 月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7 月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。